



にりんいちえ 友竹亮介著「二輪一会 二度と出会えない人」

9月24日 自転車でユーラシア大陸からアフリカ大陸まで30カ国を走破した広島市出身の友竹亮介さん(神奈川県在住)。玖波公民館では90人を超える聴衆が冒険譚に耳を傾けました。2018年5月に日本を出発し、1年7カ月に及び2万5千kmの旅。過酷な自然環境の中、何日も走り続けることもありましたが、行く先々で現地の人たちの温かさに触れることができた旅でもあったと振り返ります。参加者の玖波中学校の生徒からは「費用はどれくらいかかったか」「どんなスポンサーが付いたか」などの質問がありました。新型コロナウイルスの流行などで、いったん中断している自転車旅。収束の頃合いを見計らって、アメリカ大陸への旅を計画しているようです。



①厄年の同級生で担ぐみこし。今年は酉と成年の番。②沿道でおはらいする神社三姉妹。③④親子でやっこを務めました。⑤厚重感のあるみこし。肩に力が入ります。

10月3日 広島市都心部からおおむね60km圏内の市町で構成する広島広域都市圏。その広報番組『広島広域都市圏魅力発見 元就。二百万一心』の収録が、栗谷町のマロンの里で行われました。番組ではマロンの里交流館で、栗を使ったケーキ作りに励む女性7人の「くり魔女グループ」の取り組みを紹介します。

町娘に扮したRCCアナウンサーの洲上沙紀さんが、出来立ての和栗のテリーヌを堪能。放送はRCC中国放送で11月5日(土)21時54分～58分。再放送は11月6日(日)24時50分～54分、11月7日(月)18時56分～19時です。

どこのテンゲの下駄でしょう?



35 答えはページに



大竹祭(前編)

大竹祭の後編は12月号に掲載予定です。



10/16 SUN



⑥黒のシャツに赤い前掛け。ひときわ目を引く華みこし。⑦マイ獅子頭を持って観覧。



⑧御所車を引く子どもたち。祭り気分は最高。⑨大きな紅白餅を載せた御所車。手を振ってくれた巫女さん。⑩行列が到着した元町4丁目の疫神社で浦安の舞。

10

玖波祭



10/9 SUN

祭りの季節が戻って来た

小方地区・玖波地区・大竹地区

小方、玖波、大竹それぞれの地区の秋祭りが挙行され、やっこ行列を先導役として、みこしなどが繰り出し、沿道の観客を楽しませてくれました。

コロナ後初となる小方祭の行列は、規模やルートを縮小しての開催。それでもやっこが近づいて来ると、この日を待ち遠しく思ったかのように住民が通りで出迎えます。

玖波祭のやっこは豪快な所作が特徴。太い柄の毛槍を振りながらの掛け声が卯建の町並みに響きます。

大竹祭は、各地区の山車こそ出ませんでした。やっこ、御所車、みこし、華みこし、太鼓と続き、久しぶりの華やいだ光景を観ようと、沿道には多くの人が詰めかけました。



①ストリートダンサーばりのアクション。『玖波宿本陣 陣入やっこ』。市の無形重要文化財に指定されています。②境内を縦横無尽に練るみこし。③豪快に振る毛槍が白壁に映えます。④JRの低いガードを腰をかかめてくぐるみこし。一番の難所。⑤太鼓の達人? ⑥玖波駅前を威勢よく練り歩きます。



小方祭



⑦てんぐの前身、猿田彦のお通り。⑧やっこの田中雄二さん(左 和木町)は、「久しぶりですが、20年くらいやっているの、体が覚えていました」。⑨和田家の前を厳かに進みます。

10/2 SUN